

追浜地域運営協議会 通信 第3号

平成23年9月にスタートした「追浜地域運営協議会」。様々な活動を進めている「追浜地域運営協議会」の今をお伝えします。

市長車座意見交換会 開催

平成27年11月10日、追浜地域運営協議会と市長との車座意見交換会を開催しました。この車座意見交換会は、地域運営協議会の委員が日ごろ感じている地域課題の解決や活性化を図るためのアイデアなどについて、市長と直接、意見交換を行う場で、追浜が市内で初めての開催です。



〔意見交換の主な内容〕

1. 追浜駅前共生開発事業について

【委員】

現在、金沢八景駅前の開発事業が行われていますが、路線バスのルート変更等追浜駅前ロータリーに影響を及ぼす計画があるのでしょうか？追浜駅前には、地域活性・共生のために大変重要な拠点であり、工業地帯の就業者の通勤経路に関わることから、市として追浜駅前をバックアップしていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

【市長】

京浜急行バスから路線バスのルート変更や追浜駅前ロータリーに影響を及ぼす計画は無いと確認しています。ですが今後そのような動きが確認された場合は、バックアップしていきます。



2. ふれあいお弁当について

【委員】



追浜でこの事業に関わる人達の多くが、現行制度のジレンマを感じています。横須賀市は、ふれあいお弁当を今後継続して実施していきたいのか、それとも縮小していく方向なのか伺います。また、親子2人暮らしで日中独居となる高齢者へのサービス提供の要望があります。これは、要綱第2条3項の市長の認める世帯にあたると思いますが、現在は認められていません。この要綱の市長が認める世帯とはどのような世帯を示すのでしょうか？

【市長】

ふれあいお弁当事業は、高齢者に食事を提供することはもちろんのこと、地域の方々が地域の高齢者を見守り、地域交流を図っていく大変温かみのある事業です。平成26年度には、配食時の見守りにより349件の異変等が発見されました。このような点からも、非常に意義のある事業であることから、現時点では今後も継続していく考えです。また、要綱のその他市長が認める世帯とは、例えば同居のご家族が重度の障害をお持ちなどの理由から、そのご家族が高齢者の食事の支度や安否確認などの面倒をみるのが困難な場合など、高齢者が実質的に一日を通してひとり暮らしと同様な状況である世帯を対象としています。なお、個別対応が必要であり、家族の同居の状況によっては検討を要する場合がありますので、高齢福祉課にご相談ください。

※再質問で「高齢者世帯が増えているのに配食数が減少しているのはなぜか」という指摘があり、市長からはこれを認めた上で、今後制度についての再検討を行いたい旨の回答がありました。



3. おっぱまワインの名称について

【委員】

2005年春、国内初の「商店街ワイン」として商品化した「おっぱまワイン」ですが、この度、地域名を商品名に使えないと国税庁から通知があり、名称変更を余儀なくされています。私達は、追浜地域の活性化推進・観光資源として定着している「おっぱまワイン」の地域名は必要不可欠であると考えており、市としても、本制度の再検討を国に働きかけていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。



【市長】

「おっぱまワイン」の名称が使えなくなることは、私も納得がいかないところです。みなさんもこれまで国税庁に対して幾度となく追浜の気持ちを伝えてきたと思いますが、改めて市からも商店街初のワイナリーであること、長い年月をかけて追浜地域のブランドに成長させたこと、全国区ではなく地域限定であること、そして地方創生と逆行してほしくないことなどを伝えました。

4. 貝山地下壕の観光地化について

【委員】

戦時遺跡は昨今、各地で非常に話題になっています。ここ追浜にある貝山地下壕は非常に大きく、手掘りによるツルハシの跡や、軍事車両・機器の格納スペースなど見どころも豊富です。地域にある観光資源をそのまま死蔵させていたらもったいないと考えますので、ぜひ貝山地下壕を観光スポットとして活用できるように検討していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

【市長】

貝山地下壕の歴史的価値、戦争遺産として後世に残すこと及び追浜地域の資源として活用することを希望する声が多数あることについては認識しています。今年度、職員が現地の状態を調査したところ、安全性の確認、公開するために必要な整備内容、公開の仕方が課題であると判明しました。今後の公開に向けて、さらなる検討を進めていきます。公開するためには、地域の皆さんの熱意や市議会議員の皆さんのご協力も必要となります。よろしくお願いします。



5. 案内板・誘導板設置へのバックアップについて

【委員】



追浜地域には、縄文時代から近現代の歴史遺産、海・山に息づく自然遺産など外から観光客を呼べる価値のある「まちの宝」がたくさんありますが、案内板・誘導板が不備であることを痛感してきました。そこで、今年度の追浜地域運営協議会の事業としてこれを取り上げ、部会を設置して検討を開始しました。地元を知る住民が主体的に提案し、案内板等を地域として一体的に整備できないかと考えております。しかし、実現には行財政面のバックアップが必要です。市としてバックアップを考えていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

【市長】

本市にはすでに200箇所以上に観光案内板を設置しています。新たに設置を希望する案内板は、設置場所の地権者の特定、同意、賃借料等の問題もあり設置が難しい状況ですが、既存の案内板で老朽化が激しい看板は予算の範囲内で順次更新しています。今後、既存の案内板をリニューアルする際は、地域の意見も聞きながら実施していきます。また、地域運営協議会からの具体的な提案があれば所管する関係課のバックアップも検討していきたいと考えています。



6. ハマちゃんバスの運営支援について

【委員】



浜見台や追浜東町等高台の地域に住む人達の日常生活の「足」として、京急追浜駅・湘南病院・横浜南共済病院等を巡るハマちゃんバスは年々利用者が増えています。高齢化が進む中、「外に出るのが楽しくなった」、「病院へ行くのに助かる」などの声のほか、高台に建ったマンションからは乳幼児を連れた若いお母さんの利用も増えています。しかし、利用者の謝金とボランティアで運営する現状には限界があります。このような地域の実情を鑑み、市が一般街路への路線バス運行を促進していただけないでしょうか。

また、路線バス運行が叶わないのならハマちゃんバスへの運行・運営支援をしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。



【市長】



ハマちゃんバスの代替として、路線バスでの運行の可能性については、京浜急行バスに相談しましたが、ハマちゃんバスが運行するルートは道路が狭く、路線バスの運行は、物理的に不可能との見解でした。自家用車を用いたボランティアによる無償運送に対して、外部から運行経費を支援することは道路運送法上、認められておらず、現状では市が運行を支援することはできません。今年の6月から、地元タクシー会社、ハマちゃんバス運行協議会及び市の3者で、ハマちゃんバスの運行を引き継ぐ可能性について検討を開始しています。運行の安全性や継続性を考えると、事業認可を受けた緑ナンバー車両による運行が望ましいと考えています。

また、路線バス運行が叶わないのならハマちゃんバスへの運行・運営支援をしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

Y・フェスタ追浜（10月17日）

平成 27 年 10 月 17 日、Y・フェスタ追浜を追浜観光協会と共催いたしました。皆様、ご協力ありがとうございました。

【ハロウィンパレード：駅前会場】（来場者数：約 3,000 人）

・ハロウィンパレード

多くの地域の団体やグループが参加した手作りのハロウィンパレード
こどもたちからシニア世代まで地域が一つになりました



- ・ **ブラスバンド と ダンスパフォーマンス**
 素晴らしい演奏（追浜高校吹奏楽部）、素晴らしいダンス（横須賀総合高校ダンス部、追浜保育園、パンダ保育園）に皆さんから大きな拍手が送られました



- 【**秋まつり in NISSAN：日産会場**】（来場者数：約 15,000 人）
 ・ いろいろな催し物とブースがあって、とても楽しいイベントでした



- 【**追浜 海の花火大会：アイクル会場**】
 （来場者数：約 3,500 人）
 ・ 水中花火が名物の「追浜 海の花火大会」
 リサイクルプラザ アイクルの目の前の海上である 2,500 発の花火は迫力満点
 日没後 17 時 30 分から始まる追浜の花火は、小さいお子さんも一緒に楽しめる花火大会となっています



《追浜地域運営協議会の委員構成》

- ・ 連合町内会 3名 ・ 追浜地区社会福祉協議会 3名 ・ 追浜観光協会 3名
- ・ 追浜民生委員児童委員協議会 2名 ・ 協同組合追浜商盛会 1名 ・ 追浜地区PTA 1名
- ・ 追浜工業会 1名 ・ 追浜地域体育振興会 1名 ・ 青少年育成 1名 ・ 学識経験者 1名 計17名

《発行》追浜地域運営協議会 会長 澄川貞介 追浜地域運営協議会事務局：追浜行政センター
 【連絡先】046（865）1111